

●松かさツリーの土台作り 250 個出来上がる

先日のいきものフェスで 50 数個購入いただいたので、用意した松かさで売れ残ったものはいずれも小型のものばかりになってしまいました。このままでは 22 日の城陽市緑化フェスティバルでは小型のツリーになってしまうので、急遽新しく製作に取り掛かりました。参加していただいた方々は森島さん、播川さん、太田さん、大村さん、有田さん、篠原さん、堀さんの 7 人が駆けつけてくださいました。コロナの関係であまり取り組めていなかったのも、久しぶりに楽しくワイワイと話が弾んで面白く楽しい時間を過ごすことができました。この日は作業日とで、場所は草内倉庫の前で気持ちよく屋外での約 2 時間の作業でした。周りの田圃は稲刈りが進みコンバインの音が心地よく響き季節の移り変わりが実感できました。



●10 月 22 日（日）10 時から城陽市木津川運動公園で「城陽市緑化フェスティバル」開かれる

里山の会が展示ブースと松かさツリー作りのワークショップで参加します。スタッフは有田さん、森島さんです。松かさツリー作りは、これまでの数年間、できるだけシンプルで幼児も簡単に作れる取り組みとして、多くの皆さんから絶賛をいただけてきました。先日のいきものフェスで一工夫してみてくださいとのリクエストが寄せられました。1 本立てばかりでなく 2 本立てや高低をつけたもの等の変化をとというものでした。土台の工夫も必要ですので、検討してみましょと返事をしておきました。貴重なご意見有難うございました。

●朝日新聞 10 月 14 日号に『週刊ニュース 1000 号の到達』が府下版で大きく報道されました。多くの方々に伝わっているようです。反響がありました。産業大学教授の鈴木康久さん、舞鶴市レンガ元博物館館長の黒田悠三さんや、雲ヶ畑の自然の会員の小田島さんから喜びの声をいただきました。

●今年も同志社大学サッカー部がボランティアで里山の会のお手伝いをすると連絡あり一昨年初めて応援に来ていただいたときは、里山農園の丸山の草刈りをお願いしました。急な斜面で高齢者集団では手が付けられなかったのですが、若い力で雨が降る中、2 日間で見事に刈り上げてくださいました。その時の模様は NHK/TV で放

23 京 都 京都 14 版 2023 年(令和 5 年)10 月 14 日(土)

京都

京都総局
〒604-8101
中京区御池通桐馬場角
電話 075(211)3351
fax (211)8339
mail: kyoto@asahi.com
宇治支局
電話 0774(20)1553
fax (68)1544
舞鶴支局
電話 0773(76)5555
fax (78)9051

購読のお申し込み
配達お問い合わせ
0120-38-0843
(7:00~21:00)

広告(土日祝除く)
075(241)1231
折り込みは
075(602)8451

(下地)

地域の自然 発見伝え 1000 号

「やましろ里山の会」週刊ニュース

NPO 法人やましろ里山の会(市田辺市)が発行する週刊ニュースが 9 月 28 日、1000 号を数えた。1993 年から 95 年にかけて、のちの会員たちがトキウスキオオオミズオオバコなどを地域で見つけた。これを 95 年 5 月 11 日の結成につながった。よびかけた山村武正さん(83)によると、そのころ関心を寄せてくれる研究者はすくなく、行政は「荷りも付かず」状態だった。実際に田辺町(いまの京田辺市)の会(市田辺市)が発行する週刊ニュースが 9 月 28 日、1000 号を数えた。1993 年から 95 年にかけて、のちの会員たちがトキウスキオオオミズオオバコなどを地域で見つけた。これを 95 年 5 月 11 日の結成につながった。よびかけた山村武正さん(83)によると、そのころ関心を寄せてくれる研究者はすくなく、行政は「荷りも付かず」状態だった。実際に田辺町(いまの京田辺市)の会(市田辺市)が発行する週刊ニュースが 9 月 28 日、1000 号を数えた。

2001 年 12 月に NPO 法人となり 03 年 7 月 15 日にホームページを開いた。そして 04 年 7 月 31 日、活動の成果と予定をひろく知らせようとして週刊ニュースを創刊した。いまはメール送信が主だが、はじめのころは印刷した紙版を会員が歩いて自転車をこいだりして配っていた。ファクス送信もあって写真を載せると真つ黒にうつるもので文字だけの紙面だった。執筆はすつと山村さん

NPO 法人やましろ里山の会の会報はいつにもぎやから京田辺市田辺町

過去号は 2010 年 7 月 1 日発行の 310 号からホームページ(<http://www.yamashiro-npo.jp>)に載っている。木曜日の正午に更新している。年会費 2 千円で会員も募っている。申し込みはホームページの「会員登録」欄(0774・64・4183)へ。

だ。山村さんは「アホやから」でまじめにしようので、野村浩三(68)に語ってもらった。「いまはこはの力が弱くなっている。でもどのような社会になっても人間はこはで理解しあう。言語化したときにこそか本当の本質がわかる。会員が発見・確認してきただけ植物には、フナバラソウ・レンリソウ・カスミサシヨウウオ・オオムラサキなどがある。「無名」のものをあつめると教えきれない。ふ。屋入派だった伊藤千恵子さん(74)は、近所の花好きに誘われて木津川を歩いている。ちいさい花があちこちに咲いているのに気づき、虫眼鏡でのぞいて名前をしらべた。なちまちとりになった。播川司さん(82)は「自然とかかわると発芽の連続です」、太田敏之さん(73)も「会の活動に人生の 70-80 割をかけています」と語る。無数の「発見は、こは

(下地)

映されました。そして昨年は地元白土山と呼ばれ、山奥に磨き砂を算出した洞穴への周遊路を開通させて里山農園の念願の施設を充実させてもらいました。そして先日にも今年も里山の会のお手伝いのボランティアを予定していると連絡が届きました。有難いことだと受け止めて、長年実行してきた木津川堤防で生育している絶滅危惧種保全のための生育調査や、生育地の除草作業のうちの刈草の収集作業をお願いすることで返答をさせて頂きました。これに対して“大切な植物や美しい花の保全に役立つことは嬉しいことだ”と責任者の方からお返事をいただきました。全体で35ヶ所16000㎡あって大変ですが、里山の会はお願いしていこうかと考えています。全長24kmに及びますのでボランティアの学生さんを現場に運ぶことが大きな課題で悩んでいます。これまでの2回の作業予定は12月上旬でした。木津川堤防での人員運びにご協力をいただけると有難いです。

●2023年度木津川に竹蛇籠設置場所確定をする

先日の第1回生きものフェスの製作講習会で作り上げた竹蛇籠を木津川本川に設置する場所を決定するために福井さんと竹門先生が10月19日の朝早くから調査を実施していただきました。候補地は玉水浜が第1に上がっていますが、いかがなものでしょうか。ここには大きな砂浜が広がっていて比較的浅瀬もあり、流れにも変化が見られ瀬や渕ができていて竹蛇籠設置にはよい場所と考えられるようです。魚とりを実行するには通路（保持維持管理には大変ですが）もあって使いやすいと思われます。ここに決定された時には蛇籠が流れないように1本の蛇籠に1トン程度の栗石を多くの人の手で運び、人海戦術で詰めなければなりませんので、お手伝いをお願い致します。最後の完成のためご協力をお願いします。まさにこれはみんなで川を作る『令和の川普請』です。皆さんのお手伝いをお願いいたします。実行日時が決まりましたら週刊ニュースでお知らせいたします。



写真 は 2015 年の 1 回目
に設置したものです。

木津川左岸 12.5 km 飯岡付近に初めて設置しました。今も現存しています。

●秋の摂南大学がイタセンパラの復活を目指すワンドの生育調査を予定

先日第1回魚釣り大会で26組の親子が10種類73匹を2時間で釣り上げました。最も多かったのがオオクチバスで28匹でした。ブルーギルも4匹が釣り上がりまして、外来魚が沢山生育していることが判明し、在来魚たちが食べられていることも明らかになりました。このワンドで生育調査生態調査を数年繰り返し行って、イタセンパラの復活を目指す調査を摂南大学の皆さんが繰り返してきています。今年の秋の調査のために里山の会は、通路や周辺の雑草を刈り上げて調査が行いやすくする協力をしてきました。10月18日の午後13:00~16:00まで森島さん、有田さん、太田さん、播川さん達が除草作業をして下さいました。お疲れさまでした。

